

リベリア
ニンバ山脈地帯森林保全プロジェクト
現地からのお便り

2017年2月
コンサベーション・インターナショナル

保全契約1：家畜飼育

昨年9月について締結された保全契約の下、それぞれのコミュニティで豚舎の建設が始まりました。Gbopayeeの豚舎は4部屋、Yoloweeの豚舎は5部屋構造です。Gbopayeeの豚舎は、あらかた完成し、あとは内部の工事が残るのみです。Yoloweeの方は、外壁工事と屋根の取り付けを進めました。完成したら、それぞれの豚舎にまずは3組の豚を迎え入れる計画です。



Gbopayeeの豚舎



Yoloweeの豚舎

コミュニティがきちんとした方法で豚を飼育できるよう、豚飼育の専門家を各コミュニティで1名ずつ雇用しました。既にコミュニティに入り、豚舎建設に技術的な助言をしています。また、豚舎に入れる3組の豚を選ぶため、色々なところで飼育されている子豚の調査を実施中です。来期には、コミュニティを対象とした豚飼育のトレーニングを開始する予定です。

保全契約2：フロントライン保護官

保全契約でコミュニティが受取る便益のもう一つの柱が、元猟師のフロントライン保護官としての雇用です。彼らがフロントライン保護官として活動していくため、11月26日～30日にトレーニングを実施しました。私達は裏方に回り、東ニンバ保護区の管理を担う政府のチームが主導する形で、パトロール、保全に関する普及啓発、東ニンバ保護区の境界の明確化等、東ニンバ保護区の管理をサポートするために必要な知識・スキルについて学びました。以下は、トレーニング項目の例です。

- GPS の使い方と実地練習
- 東ニンバ保護区の生物多様性の重要性
- 東ニンバ保護区とコミュニティ林が分かりやすく示されたコミュニティ地図の作成
- パトロールの方法、計画、実施のための調整
- フロントライン保護官としての行動規範

トレーニングの後、フロントライン保護官たちは、森林局と連携してのパトロールを 12 月 1 日から開始し、12 月末には、初めての給与を受取りました！



室内トレーニング



GPS 操作の練習



野外トレーニング



グループワーク

Gbopayee コミュニティの紹介

前回のお便りの Yolowee の歴史に続き、今回は、Gbopayee の歴史をご紹介します。Gbopayee 村は、1914 年に Gbalasuclule と呼ばれる戦士により創設されました。ちなみに、「Gbopayee」は、現地では話されている言葉で「トイレの場所」という意味です。Gbopayee 村は、東ニンバ保護区に隣接して位置し、181 世帯の人々は、東ニンバ保護区に大きく依存した生活を送っています。



Gbopayee 村の様子

Gbopayee 村のタブーは、黒い蛇とヤシの枝で、村の人々は、黒い蛇を殺したり、ヤシの枝を村に持ち込んだりすることを禁じられています。黒い蛇やヤシの枝が村に持ち込まれると、病気が蔓延したり、村人間の争いが起きたりすると文化的に信じられています。

村の様子をもう少しご紹介しましょう。村には、1972 年に設立された小学校が一つだけあります。4 人の教師の下、50 人弱の子供たちが学んでいます。飲み水が汲めるのは 1 箇所だけで、小川から汲みます。村に病院はなく、病人がでたら、病院のある村や町までつれていかなければなりません。生計を支えるのは、サトウキビとコメの栽培で、伝統的な移動式農業や焼き畑農業が最も一般的です。狩猟も主要な収入源で、主に男性が猟犬、罟、猟銃を使って行います。森からは、食料、医療、その他の目的でラタン、クルミ、コショウを初めとした様々な非木材林産物が女性により採集されています。これらの非木材林産物は、自家消費する他、少し大きな別の村にあるマーケットで売られます。

チェーンソーを使った木材の伐採は違法ですが、ニンバ郡だけでも 4 千人が従事し、リベリア国内に木材を供給しているといわれています。Gbopayee の住民も関わり、収入を得ています。一方で、コミュニティ林の保全を実施してきた実績もあります。Gbopayee 村における意思決定は、コミュニティメンバー全員の参加の下で話し合っを行なわれます。決定された事項を実行するのは、複数人いる地区長の責任です。Yalowee の場合と同様、保全の取組みを効果的に実施するためには、地元の社会システムとの連携が重要です。